プロサッカークラブの誕生

—ヴィッセル神戸における行政の役割に着目して—

和久　葵

キーワード：神戸市，ヴィッセル神戸，川崎製鉄，地下鉄海岸線，FIFA ワールドカップ

1. 研究の動機

日本プロサッカーリーグ、通称 J リーグは 1993 年に 10 クラブで開幕した。2017 年シーズン開幕時点では 54 クラブと、24 年間で 44 ものクラブが新たに加盟を果たした。その中の一つがヴィッセル神戸である。

そこで、筆者は自身の地元である神戸に、J リーグ開幕当初は存在していなかったプロサッカークラブがどのようにして誕生したのかについて関心を持ち、本研究を行うことにした。

2. 研究の目的と意義

本研究の目的は、神戸市がどのような背景から株式会社川崎製鉄サッカー部を誘致し、プロサッカークラブであるヴィッセル神戸を誕生させたのかについて各時代区分における背景や経緯を明らかにすることである。

また、今後のプロサッカークラブの誕生や、プロ化を目指す他スポーツの発展の一助となることを意義とする。

3. 先行研究の検討

プロサッカークラブと地域との関わりについて考察した研究には、藤川慎也（2014）、川久保篤志（1998）がある。しかし、これらはクラブ誕生後の活動に関して述べられているものであり、クラブ設立時期に着目した歴史研究は見られなかった。

4. 研究の課題と方法

本研究では、神戸市会や委員会の議事録等の公文書を主な史料として用い、下記 3 点を検討することを課題とする。

1）神戸市の行政施策（第 1 章）

プロサッカークラブ誘致活動開始の背景として、当時の神戸市の行政施策を明らかにする。

2）神戸市のプロサッカークラブ誘致への高まり（第 2 章）

1）で明らかにした背景を踏まえ、プロサッカークラブ誘致の経緯を明らかにする。

3）ヴィッセル神戸の誕生（第 3 章）

プロサッカークラブとしてのヴィッセル神戸の誕生の実態を明らかにする。

5. 本論

5.1 神戸市の行政施策

神戸市では、サッカーがプロ化する以前に、神戸市制 100 周年記念として、サッカーチームをつくるといった構想が浮かぶも、実現には至らなかった。その理由として、神戸市は、1985 年にユニバーシアード神戸大会を開催した後、国際スポーツ都市宣言を表明し、以降、国際的なスポーツイベントの招致に注力していた。そのような姿勢から 2002 年の FIFA ワールドカップの招致を進めていくこととなった。

また、神戸市は当時、インナーシティの問題を抱えていた。そこで、インナーシティ総合整備方策懇談会（1986～）や都市活性化総合対策特別委員会（1988～）で解決へ向け話し合いが行われ、1988 年 12 月 22 日に神戸市インナーシティ総合整備基本計画が策定されるに至った。その内容は、海岸線の整備や新長田駅前再開発、大規模工場跡の活用等、計 19 のリーディングプロジェクトを設定し、インナーシティ対策に取り組んでいこうとするものであった。その 19 のリーディングプロジェクトの中でも、海岸線の整備は、最も規模・波及効果が大きいことから、インナーシティ活性化の切り札として最重

点事業に位置付けられた。

5.2 神戸市のプロサッカークラブ誘致への高まり

地下鉄海岸線はＪリーグが開幕した 1993 年に 5 年後の 1998 年開業を目標として着工された。当時、Ｊリーグが予想以上の盛り上がりを見せ、開幕以前の倍以上の観客動員数を記録していたことから、Ｊリーグの集客力によって、海岸線沿線の御崎公園に存在した神戸市立中央球技場を集客施設として大いに活用しようと、神戸市は考えていた。海岸線の乗客需要増による経済効果が期待されていたのである。また、それだけでなく、プロサッカークラブのホームタウンとなることで地域の活性化を促し、インナーシティ問題の改善も意図していたと考えられる。

国際的なスポーツイベントの招致に注力していた神戸市は、1992 年 7 月に 2002FIFA ワールドカップ国内開催地として立候補した。この開催地立候補を契機に、神戸市立中央球技場を収容人数 1 万 3,000 人から 4 万人規模へと改修することになった。この改修後のスタジアムを有効に活用しようとプロサッカークラブ誘致へ動いた。また、FIFA ワールドカップの招致を成功させるために、日本サッカー発祥の地のみならず、プロサッカークラブのホームタウンとなることで、サッカー熱の高さをアピールし、「サッカーのまち」というイメージの形成を狙ったと考えられる。

以上の 2 点を大きな要因として誘致活動を進め、川崎製鉄株式会社との交渉の末、1994 年 3 月 30 日に同社サッカー部の神戸市誘致に関して合意を得、一定の成果を挙げた。

5.3 ヴィッセル神戸の誕生

Ｊリーグ正式加盟のためには、運営会社の設立が急務であった。そして、川崎製鉄株式会社サッカー部の誘致決定から 3 か月後の 1994 年 6 月 30 日に株式会社神戸オレンジサッカークラブが設立された。神戸市は、資本金 10 億円のうち 7%にあたる 7,000 万円を出資し、運営会社設立の一端を担ったが、出資 1 位のダイエーグループの企業カラーである「オレンジ」を含んだ社名やダイエーグループからの出向社員、また、神戸市・川崎製鉄は収支には関与しないなど、ダイエーグループの色が濃く反映された運営会社であった。

また、クラブは 1995 年 4 月 30 日の「『ガンバレ神戸』阪神淡路大震災チャリティーマッチ」と称されたリオデジャネイロ市選抜との試合でヴィッセル神戸としてデビューした。神戸総合運動公園ユニバー記念競技場で 18 時にキックオフされたこの試合は 1-1 の引き分けとなるも、相手と互角に戦う姿は市民を勇気づけ、復興のシンボルとして、市民に応援されるクラブとなる絶好の船出であったといえる。

6. 結論

神戸市がプロサッカークラブの誘致に取り組んだ要因は大きく 2 つ挙げられる。1 つ目は、地下鉄海岸線の乗客需要増のため。2 つ目は、FIFA ワールドカップ招致のためである。つまりは、プロサッカークラブのもたらす経済効果や地域活性化効果に目をつけ、都市をより良くするための一つの手段として、神戸市はプロサッカークラブの誕生へ向け取り組んだということができる。実態として、神戸市は、資本金の出資や施設の提供、運営会社への人的援助等あらゆる面からクラブの誕生を支える役割を果たした。

また一方で、行政だけでなく、「神戸にプロサッカーチームつくる市民の会」に関わった市民の力やスポンサーとして関わった企業の力、また、古くからサッカーへの関心が高かった土地柄等、様々な力が複合的に合わさった結果、神戸市にプロサッカークラブであるヴィッセル神戸が誕生したと推測することができる。それらの市民やスポンサー側の想いや思惑を探ることで多角的に神戸市におけるプロサッカークラブの誕生を捉えることができると考えられるため、これを今後の課題とする。

（指導教員　　秋元忍）